

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



桜トンネルから神殿を望む
(4月5日 大教会神苑で)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ
祈る 動く つなぐ

立教176年
4月号

学生層育成はおたすけ活動

3・21 学生層育成者講習会 開催

学生担当委員会

吉川先生は「次代を担う若い人達を育てる事はにいがけ、おたすけ」であり、おたすけ活動の一環として取り組んで頂きたいと話された。講話要旨は次の通り。

大教会学生担当委員会(山野弘実委員長)は3月21日、吉川吉郎先生(本部学生担当委員・河原町大・本街分教会長)を講師に迎え、大教会3月

月次祭後に「学生層育成者講習会」を開催、約220人が参加した。学生層をはじめとする道の後継者育成の重要性を理解すると共に、活動を広めていく事を目的に毎年開催しているもの。



学生層への丹精を話される吉川先生

◎学生層育成の意識

学生層育成という話をする時「私の教会には学生はいないなあ。今の学生は何を考えているのか分からない」という事をよく聞きます。

果たしてそうでしょうか。意識を変えてみると教会に参拝に来られる方の子どもは高校生かもしれませんし、何年前前にこどもおちばがえりに参加してくれた子は高校生、大学生になっているかも知れません。また学生はどんな事に興味を持っているのか、どんな事に悩んでいるのか、そういう事に気付くかも知れません。今日は、学生層育成という意識を持って頂ける機会になればいいなあと思っています。

◎信仰は駅伝のように

私は、毎年、正月の箱根駅伝を楽しみにしています。どの大学が強いかという事もありますが一番はタスキが繋がるかどうかです。走っている最中に体調を崩して、途中で棄権するという選手も

います。意識がもうろうとしながらも、立ち上がって走ろうとしています。選手の中にあるのは次の選手にタスキを繋ぎたい、自分がタスキを途切らせてはいけぬ、その思いで一杯だろうと思います。

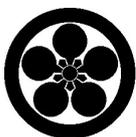
教祖110年祭の年に、後継者講習会がおちばで開催されました。前真柱様(当時は真柱)は、お道を通る私達に駅伝を例に挙げて「陽気ぐらし街道を通る私達は1代目、2代目、3代目、4代目もつまり私も皆さん方も皆それぞれが親神様から割り当てられて、その時代を行く走者なんです。親神様から選ばれた、それぞれの時代に生きた私達の先輩方

<実行目標>人のたすかりを願ひましよう

おたすけ・お願いカード 集計：3, 569枚

平成25年2月21日～3月21日

平成25年累計：4, 803枚



は、皆さんの先輩達は、その時代でしか受けられなかった影響の中を、教祖を見失わず教祖のひながたを唯一の頼りとして、私達に道を受け渡して下さったのであります。今度、私達が私達の後に続いて道を通ってくれる者にタスキを渡さなければならぬ。更に両親が自分を産んでくれ、両親はまたその両親から生まれ、それぞれに過ぎ去った時にかえり、ああ助けて頂いた、親神様のご守護によつてこそ、日々を通らせてもらうことが出来るんだと、親神様を、教祖の教えを堅く信じて道を通つてこられたのだという事を、私達はよく思案しなければなりません。そうして次々と代を重ねて道を引き継いできて下さったお陰であなた方という道の後継者が生まれた。私はそう思っている。そこで私は皆さん方をお願いしたい。皆さん方が、しつかりこれまで通られた人から道を受け継いで、次の人に渡すまで責任を果たして、私を、立派に責任を果たしてくれる事をお願いしたいのであります」と、お話し下さいました。

◎学生層の将来は丹精次第

学生層育成という特別なように受けとられ、学生担当という立場を与えられた者がする事だと思われがちです。しかし真柱様は常々「次代を担う若い人達を育てるといふ事は、にをいがけ、お

たすけなんだ」とお聞かせ下さいました。

子ども達が親神様のご守護、ご存命の教祖のお働きを感じて、よふぼくとしてたすけ一条の道を歩んでくれるようになれば、確かにおたすけに違いないと思うのです。そして若者の育成は、この道を通る全ての者が心がけなければならぬと思うのです。

学生層という時代は自我に目覚めていく時期です。特徴として周りの目や評価を非常に気にします。同時に自分というもの、自分の意見を強く押し出していきます。周りの人のちよつとした間違い、矛盾が許せなく、親や学校の先生の言う事を素直に聞かなくなり、しかし一方では、納得出来た事は素直に受け入れるという柔軟性を持ちあわせています。人格が形成され、それから先の人生を決めていく大事な岐路になる年代です。

具体的には、お守りは15歳になれば本人がおおびに帰らなければ頂戴する事は出来ません。17歳になれば別席を運ぶ事が出来、おさづけの理を拝戴し、よふぼくにならせて頂く事が出来、修養科へも志願出来ます。自分の思いで神様や信仰を理解出来る年代です。

今後、彼らが信仰の道を通るか通らないか、また通ろうとしてもどういう通り方をするか、私達がどれだけ真実込めて丹精させて頂くかどうかにかかっているのです。10年、20年後の教会の姿が

その如何によつて大きく変わるのではないかと思います。

◎斜めの関係

学生とどのように接したらいいか。おさしづの中から思案すると、神様も若い者は厄介と、けれどもお道では大切と仰つておられます。

私も学生の姿を見るとついつい厄介だなあ、出来れば関わりたくないと考えてしまう事があります。こちらがそう思っていると、相手にも伝わってしまいます。おさしづの中に「日々という。言葉一つという」とお諭し下さっています。日々、声をかけていく、何かにつけて関わりを持つとする姿勢が彼らとの接点を生み出していくと思うのです。

人間の関係には縦と横があります。縦は親子、横は友人。もう一つ斜めの関係があると思うのです。例えば親戚のおじさん、学校の保健の先生、別のクラスの担任の先生です。縦、横でだめな場合、斜めが大切な存在になる事もあります。

論達第三号に「悩める人の胸の内に耳を傾け、寄り添うとともに、をやの声を伝え、心の向きが変わるようにと導く」とお諭し下さっています。教会はそういう場所(斜めの存在)でありたいと思っているのです。

◎目標となる人との出会いと育てる心

私は学生時代、教会の後継者でしたが、教師になりたくて大学の教育学部に進みました。3回生の時、事情で教師の道を諦めました。

大教会長様に相談しました。大教会長様は「例え教師になれなくても今、学んでいる事は必ず将来生きてくるから、しっかりと勉強に励むように。お前がやらなくても教師の替わりはいるが、教会の後継者はお前しかいない」とお聞かせ下さいました。教師になる事は出来ませんでした。今、こうして尊い学生担当という同じ若い人達を育てるご用をお与え頂いています。

東日本大震災発生より丸2年が経ちました。被災された方の事を思うと本当に胸が締めつけられる思いがします。

そんな中、心温まる話を聞きました。福島県内の小学生の兄弟が毎日道路脇に立って、復旧作業のために通る警察、消防、自衛隊の車両に向かって手を振って「いつもありがとう」というメッセージを掲げて見送っているのです。当時、小学5年生の弟の夢は、大きくなったら人を助ける仕事が出来たいというのです。

自分自身の危険を顧みず、被災地のために連日汗を流し、被災された方に寄り添って作業される姿に、幼いながらも心は大きく動かされたのではないかと思います。人間は周りの人の行動、言動

を模倣しながら成長していく動物です。成長と共にいろんな人との関わりが増えます。そうした中で両親を含め、どんな人と出会うのか。あんな人のようになりたいと、目標になる人と出会う事でその子の人生は大きく変わっていくと思うのです。

ノーベル物理学賞を受賞された方が「若者が育つ原動力は憧れです。これがあればものすごく努力する」と述べられていました。

真柱様は一昨年11月に開催された学生担当者大会で「人を育てるには、育てる者の強い意志がなければ始まりません。そして何よりも、育てる者の心のおきどころが現われるのです。道に外れた心で育てようとしても、親神様に使って頂きやすい人材に育てる事が出来ないであります」とお話し下さいました。

◎「家訓」の実行

以前、子どもとテレビを見ていると現在、家族の関係が希薄になっている、こういう時こそ「家訓」を見直そうと運動している町が取り上げられています。例えば○毎日挨拶をしよう○皆で助け合おう—という事を紙に書いて壁に貼ったりするのです。こどもが「家にも『家訓』がある」と言うので、何かと聞きますと「神殿に飾ってある」と言うのです。よろづよ八首のうたの事だっ

たのです。

「立教の元一日」「たすけ一条」。これが我家の家訓です。先ずは自分が物事の思案、判断の根拠を教祖の教えにおきつつ通る中、結果として信仰が次の世代に誤りなく伝わっていくのではないかと考えるのです。

◎大きい仲間の力

学生はなかなか大人の話に耳を傾けてくれませんが、心を許すのは同世代の友人ではないかと思うのです。ある調査機関が実施した高校生意識に関するアンケート調査の結果、悩み事の相談相手として友人と答えたのが1位です。勉強や恋愛などの悩みは友人で充分と思うのです。しかし信仰家庭で育った学生の悩みは、自分の将来の生き方にかかってくるから、友人には理解されない事が多いのではないのでしょうか。

このようなお道の同世代の集い、人材育成の柱となるのがおちばで開催されている学生生徒修養会です。3月には大学の部が行われました。講義を聞いたり修練などもします。メイン行事として神名流し、路傍講演、戸別訪問というにいがけ活動をします。中には、にいがけが全く初めてという学生、また未信者という学生もいますが、実に晴れやかな表情です。なぜそんな事が出来るのか。仲間の存在が大きいのです。自分は一人で

はない。同じ環境になって同じ思い、悩みを持つ仲間がいるという事は、これから通っていく上に大きな財産になると思うのです。

8月には学生生徒修養会高校の部があります。参加者の中には悩み、苦しみを持った生徒、生活態度に問題のある生徒もいます。期間中、仲間のいろんな話に耳を傾けていくうちに、自分だけが辛い思いをしているんじゃない事に気付いたり、身体の調子の悪い仲間のためにカウンセラーを中心をお願いづとめをする、そういう姿を通して最初は反発していた生徒も、日を追うごとに表情が変わり仲間の絆を深めていくのです。それは学修というのをおおぼで行われるという事、これが大きいのです。

◎こつこつと根気を持って

現在、教祖130年祭に向かう三年千日の年祭のスタートを切らせて頂いたお互いです。先ずは、私達自身が教祖にお喜び頂けるような成人目指して年祭活動に突き進む。そうした勇んだ姿が間違いなく学生に移り、伝わっていくのではないでしょうか。

年祭活動では「おたすけ」という事を強調して下さっています。このおたすけ活動の中に、学生層の育成というものを加えて頂きたいのです。また人を育てるのは、自分の力ではなく親神様にお

働き頂かねばなりません。

すぐには結果は出ないかもしれませんが、熱意を持ってこつこつと根気よく10年、20年先を楽しみに学生層に心をおかけ頂いて、将来、彼達が道によふぼくとして、私達と共にこの道を歩んでくれるようご丹精をお願いいたします。

《以上、要約》



たすけの渦を

巻き起こそう

3・24 青年会本部委員巡回

青年会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)では、3月24日、片山直明青年会本部委員を迎え、青年会本部巡回を受けた。

片山委員は巡回の中で、あらかじりようの意義について触れた上で「教祖130年祭に向かうこの

旬に、とにかく動いて、一人からでもたすけの渦を巻き起こしましょう」と話された。

その後、行われた質疑応答では、笠岡分会委員より普段の活動を通して感じている様々な質問があり有意義な時間となった。

午後からは、同分会委員での練りあいが持たれ、教祖130年祭に向けた同分会の心定めについて、活発な意見交換が行われた。



真剣に聴き入る参加者

雅楽勉強会 開催

3・24 大教会

雅鶯会



雅楽の楽しさと奥の深さを味わいながらの合奏練習

雅鶯会(中島誠一楽長)では3月24日、恒例の「雅楽勉強会」を開催しました。開講式に続いて各部屋での練習、唱歌・管別練習、昼食後は合奏練習にと皆熱心に練習に打ち込み、短時間の勉強会でしたが、雅楽の楽しさと奥の深さを体験しました。

今回の参加者は全員少年会員でした。春休み期間中でしたが鼓笛講習会、地区行事等と重なり少人数で行いました。次回は初級者や大人の方も参加して頂き賑やかな「勉強会」にしたいと思いますので、各教会の協力をお願いします。

雑木伐採ひのきしん

3・24 大教会

管理部
おやじ会

管理部(武内清明部長)では、3月24日(日)午前9時より、おやじ会(三島衛代表)を中心に管理部員含め13名で、大教会教職舎、北側敷地内斜面の雑木伐採ひのきしんを行った。大木となったコナラの木(通称楨)は10メートルを超えるものもあり、下に民家がある為災害救隊などで経験を持つ横山逸郎東城分教会長の指示に従い、ロープをかけ、倒す方向に誤りのない様チェーンソーで切り口を入れ、伐採していくという手順で作業を進めていった。

足元の悪い斜面での作業とあって、以前に伐採したとげのあるニセアカシアの枯木の片付けや、邪魔になる竹の切り倒しを並行しながら行い、伐採した木は人が運べる大きさに切り、上に持ち運んでそれを軽トラに積みやすい様枝を整え、墓



危険な作業も手際良く

地の下の空地まで運搬した。慣れない重労働ではあったが、危険を伴う作業とあって皆緊張感を持ち、疲れた姿の中にも光る汗に親神様の御守護を感じ、大きな怪我のなかった事に感謝してひのきしんであった。作業は昼食をはさみ、切り倒したコナラの枝や竹の片付けなどを全員で行い、午後3時過ぎに残り作業の次回行う日程を、4月16日午前9時30分と決め解散した。

道の学生として

できる事を

3・28 春の学生おぢばがえり

学生会

3月28日、春の学生おぢばがえりが開催され、笠岡大教会からも各教区などから20名が参加した。

本部中庭で行われた式典で壇上に立たれた真柱様は、教祖130年祭の意義についてお話された上で、年祭に向かって学生として自分にできる事を探し



我ら笠岡学生会

て実行してほしいと要望された。

午後から行われた直属アワーでは、笠岡につながる学生が詰所に集合。大教会長様のお話があり、その後、交流行事の室内オリンピックを行なった。交流行事は、学生が計画・運営を全て進め、同じ笠岡につながる学生同士の親睦と学生会活動に対する思いを深めた。

また、大教会教祖130年祭実行委員会より、おたすけ・お願いカードと、成人目標が配布説明され、年祭活動に対する意識を高めた。

夜には後夜祭『春まつり』が催され、ステージや模擬店が立ち並ぶ会場は、若い熱気に包まれた。

年祭の歌に親しんだ

3日間

少年会

3・30～4・1
4 隊合同鼓笛バンド講習会

少年会笠岡団では、3月30日から4月1日まで、毎年恒例の、「4 隊合同鼓笛バンド講習会」を開催し、全隊より隊員・スタッフ合わせて約70名が参加した。

今回は、1月に発表されたばかりの『教祖130年祭の歌』の習得を目指して、ファイブ・ドラム・キーボード・鍵盤ハーモニカ・グロッケン・ポンポンの



年祭の歌習得目指して練習

各パートに分かれて、連日熱の入った練習が行われた。また、夜には、お楽しみ行事としてキャンドルファイヤーが行われ、各班によるスタンツ(出し物)や、スタッフによる寸劇、ゲームなどで大いに盛り上がった。隊員らは、隊を越えての交流を深め、夏のこどもおぢばがえりでの健闘を誓い合った。

尚、おつとめまなび総会式典終了後、『教祖130年祭の歌』のお供え演奏を行った。



(右)「立派なよふぼくを目指します」祭主・田中正之君(福山分)が少年会員を代表し祭文を奏上
(左)皆と心を合わせて真剣におつとめまなびがつとめられた

「立派なよふぼくを目指します」

おつとめまなび総会開催

—— 少年会 ——

少年会笠岡団(武内正美団長)は4月1日、同育成会長様(大教会長様)を迎え、大教会でおつとめまなび総会を開催、育成会員を含む519人(受付数)が参加した。各ブロックごとに役割を決めておつとめまなびがつとめられ、式典後は鼓笛演奏、模擬店、アトラクション、抽選会なども行われ、楽しいひと時を過ごした。



(右)「おつとめをつとめることは親神様が一番お喜びになることです」育成会長様はおつとめの大切さをお話し下さいました (左)武内団長より門出者一人一人に記念品が渡された



笠岡むつみ鼓笛隊は3月30日から4月1日まで講習会を開催。練習の成果をお供え演奏した



(右)昼食は中庭にブロックごとに出された模擬店で。長い行列ができた
(左)「やっぱりカレーはウマイ! おかわりが欲しい—」



(右)「うまくできたかな? 食べてみないと分からないヨ」
(左)スーパーボール。簡単そうですがなかなかうまく取れません

- わかぎ門出者は次の通り(順不同、敬称略)。
- 中村幸恵(笠岡)
 - 倉田龍彦(高屋)
 - 佐藤孝祐(芳井)
 - 森山舞華(吸江)
 - 佐々木雄史(福廣)
 - 三坂茂喜(福岩)
 - 吉岡拓海(芦田川)
 - 本多真悠(西伯)
 - 三宅あおい(作備)
 - 田中 旬(福山)
 - 松浦里奈(金浦)
 - 森本忠一(海松ヶ岡)
 - 国定直輝(新山邑)
 - 岡崎学敏(福勇)
 - 原康次郎(西村)
 - 澤田明季沙(芦常)
 - 高橋まこ(亀田山)
 - 武内裕希(高屋)
 - 森岡紗那(陶山)
 - 黒川真歩(吸江)
 - 山野奈々(上下)
 - 三坂恵太(福岩)
 - 桑山ゆかり(福節)
 - 瀬良優介(高見島)
 - 村川寛子(大江橋)



ステージ杯にあふれる若さ。
講堂ではアトラクションが行われた



「やったぜ! iPod touch をゲットだ」
大盛況の抽選会

温故知新

いきいきエピソード 23

豆腐屋が近い？

承前。倍加運動においては、その実を挙げさせて頂きましたが、この間にも笠岡ではいろいろな事がありました。振り返ってみると、大正八年の夏の事、古い信徒室の二階で、簀の子天井で、いつもゴミが落ちてくるような所で会議があった。その時二代会長から、笠岡も教祖殿を建てたい、初代会長の居間も造りたいし、役員住宅もやらしてもらったらと相談があり、「結構です。やらせて貰いましょう。」と役員も賛成しました。が、その後そうした動きがないままに、大正十年六月三日、二代会長は出直した。ですからそれが懸案となっていたのです。時あたかも教祖四十年祭という事で、懸案は見送って、年祭の働きに懸命にやらせて頂く事になった。

は、教祖殿の建築と初代会長の部屋とを、四十年祭までにやらせて頂く、そうした上のおさわりであると悟り、一度にという訳にはいかないので、まず第一期工事として、教祖殿、初代会長の居間、第二期として事務所、客室の改築、そして役員住宅をやらせてもらうという事からさせて頂きました。

どうでも助けて頂くかと思いましたが、丁度棟上げの時に「これで結構や。教祖殿が建ったら私の病気も治るんや」と言ってお直してくれました。こうして次男の身上から建てさせて頂いたのであります。こういう事がありました、まず第一期の建築は済んで、次は部内の倍加運動に精一杯の力を尽くし、四十年祭も結構にとめさせて頂きました。

それからいよいよ第二期の建築に取り掛かり、事務所、客室の改装、役員住宅のふしんも終了させてもらって、これで二代会長の残された仕事を、済まさせてもらえたと喜ばせて頂いたのであります。

そうしている中に、笠岡はいつのまにか百カ所という事になった。もともと笠岡の道の成り立ちは、芦津からお話し頂いたのでなく始まったのであります。何分初代会長は婦人の身で

ありますし、また信仰は大阪在住の頃からの事であり、笠岡へ帰ってからも、おちばへ帰るにつけては何かと大阪へ立ち寄ってはいろと相談された。その相談柱となつて下さったのが、芦津の関係の方々であります。そうした事で明治二十四年、笠岡支教会は芦津分教会の部内としてお許し戴いたのであります。

笠岡の道の始まりを思案しますと、笠岡の元の祖である上原佐吉に戴いているおさしづの上を考えると、本部直属という事になるのであるという信仰の上から、たまたま教会が百カ所にならして頂いた機会に、松村吉太郎先生を仲介としてお願いして分離という事になりました。こうして教祖五十年祭の前年に分かれさせて頂いて中教会にならせて頂いたのであります。五十年祭には本部では南礼拝殿、教祖殿が建築されたのですが、笠岡もそういう経緯を経て、五十年祭を迎えさせて頂いた。しかし年祭の前年であり、帰参信徒の上を考えますと詰所を早急に拵えねばならぬ。その事をいろいろと話しておりましたが、当時の詰所建築の考え方は、ちばから少し遠くても広い所がいというので、高知、水口、南海などが現在の広い敷地で詰所をなされたのであります。

それで笠岡も少し離れても広い所をという考えと、そこへもつてきてその頃の丹波市町長から、「今迄に詰所造ると言ったら、西にするか北に持っていくかで、南に造る処は一つもない。今度笠岡は詰所を拵えるという事やが、一つ南へもつて来てくれませんか。私の畑もいくらもあるし、足りなかつたら私ご希望通りやらせて貰いますから、何とか南へ持つてきて頂きたい」という申し入れがありました。そういう事ならその畑がどこにあるか、一度見て来たらとあるので、神邊の岸本と福山の宮本の二人に、見て来てくれと行つてもらつたのが現在の詰所の敷地であります。二人が帰つて来てどう言うたかという、「ええ処です。豆腐屋が近うてよろしい。」この二人は豆腐が好きだったんです。

しかしまあそういう事で定まつたのでありますが、今ではやっぱり良かったという事になります。三千坪の詰所敷地というのは数ありません。さていつまでも芦津のご厄介になる訳にもいきませんので、敷地の真ん中に八畳の掘立小屋を建てて入り込みました。それでまず井戸掘りをやつた。今ではそうした最初の頃の事を知っている人はいなくなつた。まあそうして八畳の間からポチポチやらせてもらったのが現在の詰所です。その後建替、

建増もしましたが、これはどうも狭くて、団体が帰つて来ると、いつも本部のご厄介にならんなんという事で、やがて母屋建築をして、二、三千人の方が泊まれるようにと考えておる訳です。そうしますと、今の詰所の敷地があるから、そういう事も考えられるので、これも親神様のご守護下さつたからと、思わせて貰つております。(この項続く)

(前史料部長)

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「伝」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させて頂きます。おめでとうございませう。

佳 詠 東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

伝道の真意の奥にドラマあり

芦方布教所教人 金谷眞佐代さん

この道を子に伝えるが我勤め

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江3 7 7

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



優秀選手賞を受賞

笠岡市体育協会

—海松ヶ岡分・森本善修君—

笠岡市立笠岡小学校5年生の森本善修君(11歳・海松ヶ岡分教会長、森本忠善さんの三男)は去る3月10日、笠岡総合体育館・サブアリーナで行われた「平成24年笠岡市体育協会表彰式」(笠岡市体育協会主催)に招待され、優秀選手賞を受賞した。

スポーツ分野で活躍した同市内在住者を表彰するもので、森本君は第22回全日本ドッジボール選手権全国大会に岡山県代表選手として出場したことから受賞となった。

同表彰式での受賞は○体育功労賞Ⅱ1人○体育奨励賞Ⅱ4人○優秀選手賞Ⅱ71人○優秀団体賞Ⅱ5団体○優秀監督賞Ⅱ1人の77人、5団体。

森本君は「このような賞をもらう事が出来てうれしく思っています。これからも一生懸命目標に向かって頑張りたいです。目標は全国大会での優勝(「GLIP THE FUTURE」)とお礼の抱負を話した。

また、同小学校4年生の森本陽気君(10歳・同四男)も、兄弟揃って同全国大会に出場し、笠岡市文化・スポーツ振興財団より文化・スポーツ賞揚金の贈呈を受けた。



笠岡小4年生
森本 陽気さん

文スポ通信

※笠岡市文化・スポーツ振興財団より文化・スポーツ賞揚金の贈呈を受けた人を紹介します。

第22回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会(大阪府)



これからの活躍が期待される善修君

笠岡市の広報誌『広報かさおか』誌
平成25年4月号に掲載された陽気君の記事

第866期修養科募集要項

※修養科期間

立教176年6月1日～8月27日

※教 養 掛

3ヶ月間	田 林 久 嗣	(大教会准役員・東 悠 分教会長)
1ヶ月目	田 中 一 矩	(上小畠分教会長)
2ヶ月目	三 阪 泰 人	(福 岩 分教会長)
3ヶ月目	余 村 健	(多古浦分教会長)

※募集要項

- ・志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を終了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日午前10時に解散。

第7回大教会長杯親睦大スポーツ大会開催

大教会長様から「笠岡内でブロックを越えた親睦を深める会を開いて貰いたい」という思いで始まったこの大会も、今年で第7回目を迎えます。

今年は**5月19日(日)**に行ないます。東日本大震災より休止していた大会を3年振りに開催いたします。

今年も、多くの方々が参加出来るよう、1チームに**会長さん、50歳以上の方、女性の方、少年会員**も必ず入るようになっています。

尚、参加お供えは1人500円(中学生以上)、当日は**おいしいカレー**も用意されています。

体力に自信のある方も無い方も奮ってご参加下さい。

大会スケジュール

8:30までに茂平グラウンドに集合(ソフトボール大会)

※雨天の場合は8:50までに井原勤労者体育館に集合(ソフトバレーボール)

開会式 遙拝
大教会長様あいさつ
競技説明
選手宣誓
準備体操

9:15 **プレイボール**
11:00より **昼食** (13:00まで)
15:30 **閉会式** 成績発表
表彰式
挨拶
遙拝
解散、片付け



各ブロックの担当者

東ブロック : 虫明立生さん(陽備)
西ブロック : 浅野明教さん(ひろさと)
福山ブロック : 福島大介さん(福満)
高屋ブロック : 秀平元一さん(高屋)
島根ブロック : 三代幸徳さん(米府)
久松ブロック : 中村剛史さん(久松)
上下ブロック : 田渕忠明さん(上備)
府中市ブロック : 豊田宏哉さん(府中市)

までお尋ね下さい



＜年祭活動推進委員会＞

○教祖130年祭「若人の集い」について

日時 6月30日(日) 9時30分 受付、10時 開講～15時30分
 会場 大教会
 講師 高生禎彦先生(平安大教会所属よふぼく、元チェッカーズメンバー)
 対象 40歳位程の男女

＜神事部＞

○月次祭・霊祭の役割、まなびについて

- ・月次祭・霊祭の役割は、前月に発表済。
 霊祭後半の役割に当たっている部内教会長には直轄教会長より連絡。
- ・役割に不都合の場合、祭典の前々日までに神事部長に連絡。
- ・霊祭前日の午後2時より霊祭の後半のまなびあり。
 役割に当たっている方、必ず参加。

＜庶務部＞

○名称録の改訂について

- ・各教会に「名称録訂正のお願い」配布。
 内容確認の上、直轄教会でまとめて5月21日までに提出。
 記載内容の不明点は岡崎真一まで。

＜布教部＞

○本部食堂ひのきしんについて

割当 福山ブロック
 期間 5月1日～15日

○直属ひのきしん特別隊について

割当 高屋ブロック
 期間 6月1日～20日

＜史料部＞

○婦人おつとめ奉仕人の履歴提出について

提出期限 7月21日

＜少年会＞

○縦の伝道講習会について

日時 5月21日(火) 大教会5月月次祭講話として

○縦の伝道総合講座について

テーマ 未来のよふぼくを育てるために
 期間 8月27日(火)～30日(金)
 募集人員 300人
 出願資格 笠岡団よりの推薦者
 申込期間 4月26日～7月20日(武内正美団長宛、申込み)
 受講費 10,000円
 講師 宮森与一郎本部員(ひながたに学ぶ縦の伝道)
 中田善亮本部員(育てよう未来のようぼく)
 永尾教昭本部員(お道の家族観)
 高橋道一本部員(少年会創設の理念と二代真柱様の思召)
 外4名

<婦人会>

○笠岡支部委員部長講習会

日時 6月1日(土) 9時~15時
会場 大教会
参加御供 1,000円

<学生担当委員会>

○新入生歓迎会

日時 4月27日(土) 正午より
会場 笠岡詰所

<その他>

○全教野球大会

日時 5月25日 10時30分~ 第1試合
会場 おぢば各球場

・笠岡大教会ワールドブラザーズは佐野原大教会・小田原分教会の連合チームと対戦します。

おやさとふしん青年会ひのきしん隊 入隊募集

青年会笠岡分会

日頃は、青年会活動にご理解とご協力頂きまして、誠にありがとうございます。また、昨年11月には笠岡分会総会を盛大に開催できました事を、重ねてお礼申し上げます。

さて、毎年恒例のおやさとふしん青年会ひのきしん隊。本年の入隊月は、昨年と同様に6月となっています。6月は、こどもおぢばがえりの準備ひのきしんが中心となります。期間中は、ひのきしんの他、てをどり・雅楽・祭儀式などの修練、月次祭まなび、感話大会、にをいがけなどが行われます。また、同じ班になった方々と信仰を語りあったり、お世話をさせてもらう中に、ひのきしんの態度や思いやりの心が自然と身についていきます。わずか24日間ではありますが、おぢばで伏せこむ間に、心の向きが神様に近づく事は間違いありません。昨年の入隊者も、何かしら心にお土産を頂き、喜んで国々に帰ってくれました。

大教会では教祖130年祭にむけて、「さあ！おたすけ 祈る・動く・つなぐ」を掲げております。ひのきしん隊の活動まさにそのものであります。この旬におぢばで伏せ込む事は、いつもの年以上に芽が伸びるに違いありません。また、青年会の活動に参加する、参加を促す事も、「おつとめ奉仕者の増員」に向けた道の一つであると言えますし、ひのきしん隊は、まさに「丹精・育成」の場でもあります。

どうか身近な方に、また、「あの人にお道の教えに触れてほしい」、「あの人にたすかってもらいたい」という方がおられましたら、お声がけいただきたいと思います。各ブロック教会10名称につき1人の入隊をよろしくお願いいたします。

◆ 要 項 『おやさとふしん青年会ひのきしん隊』

期 間：6月1~24日

入隊資格：16歳以上の男子

内 容：おやさと各所でのひのきしん・修練・にをいがけ・感話大会等

携 行 品：着替えなどの日用品・保険証・カッターシャツ・ネクタイ・スラックス

宿 舎：第百母屋(天理市豊田町)

立教百七十六年 三月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割 区分					
												坐り勤	前半	後半			
虫明好美	今川佐智子	上原順子	田中隆之	森本忠平	杉原博之	笹尾正治	河原節喜	上原浩	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	岡本久善	大教会長様	山野弘実	岡崎真一	中村邦義
岡崎豊子	森本富美子	佐藤香苗	岡崎真一	中村道徳	虫明立生	杉原博之	三島渉	高木昭祥	笹尾一美	内海安子	武内正美	上原志郎	岡崎和夫	中村剛	横山逸郎	谷内伸自	吉岡壽
三島照美	横山小智榮	門脇加津	浅野明教	武内清明	田林久嗣	吉岡誠一郎	山田敏教	内海史郎	中村初美	高木孝子	谷内美知子	田中隆之	門脇元教	佐藤道孝	岡崎輝彦	中島誠治	上原繁道

講話	学生層育成者講習会	祭主	大教会長様
	五月講話	指図方	上原浩
縦の伝道講習会	祭主	上原浩	祭主
	指図方	虫明立生	祭主

立教百七十六年 春季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割 区分					
												前半	後半				
門脇加津	岡崎豊子	武内正美	高木昭祥	門脇元教	岡崎輝彦	中島誠治	谷内伸自	浅野明教	上原順子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	岡本久善	大教会長様	山野弘実	杉原博之	佐藤道孝
内海安子	佐藤久枝	虫明好美	北川壮一	本多一男	猪原啓文	原公彦	岡崎真一	枝廣隆文	室悦子	小川洋子	藤本イッエ	香取雅人	三代幸	北川治史	藤井保人	津森朋之	平盛秀年

講話	大教会長様	祭主	大教会長様
	指図方	山野弘実	祭主
縦の伝道講習会	祭主	山野弘実	祭主
	指図方	吉岡誠一郎	祭主

三 月 月 次 祭 祭 文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護を頂戴する中に 厳しかった寒さも日毎にやわらぎ梅の花は咲きほこり 鶯も春の到来を告げるとばかりに 樂しげに声を張り上げて 何かしら人の心まで明るくなるような季節をお与え下さるばかりでなく 各々の旬に身上事情にしろしを見せて 成人を促し 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共は成つて来る理に親心を思案し 心の向きを陽気ぐらしへと変えるべく 日々は朝夕に御礼申し上げつつ たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は三月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心も一人に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 同じく道の子供達が御前に寄り集い 相共にお歌を唱和し 言改めて御礼申し上げます おたすけお願いカード 三千五百六十九枚を通して一人でも多くの子供のたすけを願う 皆の誠真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年頭より三ヶ月に亘つて実施させて頂きました諭達巡教も 部内教会総てで実施する事が出来ました 誠に有難うございました 只多くのよふぼく信者がまだ受講出来ておりませんので 五月末日までの期間を利用し 追加の諭達巡教を実施させて頂く所存でございますので 一人でも多くの人に受講して貰えるよう 引き続き御守護お導きの程をお願い申し上げます

又本日 祭典に引き続き開催の学生層育成者講習会を受けての活動として 年度替わりに当たり 子供達は春休みに入りますので 少年会員には鼓笛合同練習とおつとめ学び総会を開催し 学生会員には学生春のおちばがえりが開催されます 実践項目の一つ「つなぐ」を実動し 一人でも多くの子供達に参加の声掛けをすると共に たすけ一条の親の思いを一言添えて道の後継者育成に繋げて行く所存でございます

何卒 親神様には旬の理を活かし 親心の有難さを伝える皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上なたすけ一条の親心をお現し下さり 真実の親を知り 一列兄弟の理に目覚めてたすけ合う人が弥増して 着実に陽気ぐらしの世の状に立て替わりますよう御守護お導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます 本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人の神霊 大教会草創の頃より歴代会長と共に道の上に御苦労下さいました役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の神霊 又昨日新たにお鎮まり下さいました 武内清大人、田中一之大人、藤本キヨミ刀自、山田麗子刀自の神霊 諸々の神霊の前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様教祖に夫々のいんねんを見定められ 早くからこの道に引き寄せられ 思召のまに／＼陽気ぐらし建設の道具衆として素直にたすけ 一条の道をお通りになられました しかも茨苦勞の道ではありませんが 御恩報じ一筋に通じ切られました 今日お道の結構な姿をお見せ頂いております のはひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜物に相違ありませんが 一つには祖霊様方のそうした真実誠の伏せ込みの賜と 日々は朝夕にお礼申し上げますと共に 親に喜んで貰いたい一心でたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

分けても本日は春の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので 只今はおつとめ奉仕人並びに部内教会長代表の者一同勇んでをどりをつとめさせて頂きました 御前に海川山野心尽くしの物を供え 御遺徳を称え言改たに御礼申し上げる状を御覧頂きまして 御心をお安め下さいますようお願い申し上げます

今私共は教祖百三十年祭に向けて三年千日と仕切つての成人の歩みを始めたばかりでございます 年頭より今日にかけて全部内教会へ諭達巡教をさせて頂き 輸達の徹底を計ると共に大教会の動きとしまして 「さあ！おたすけ」との合言葉のもと「祈る・動く・つなぐ」を実践項目に掲げて共々に成人の歩みを誓い合わせて頂きましたが まだ受けておられない人の為に五月末までに追加巡教をさせて頂いて教祖百三十年祭目指しての目標であります おつとめ奉仕人の増員に繋げて行きたいと思えます

何卒祖霊様方には お目怠い点多々あるかと思えますが 只々親に喜んで貰いたい一心で精一杯にたすけ一条に励む皆の真実の状を暖かくお見守り下さいまして たすけ一条の御用の上により一層のお力添えを賜りますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

◎第八〇期修養科一期講師

自 立教175年12月1日
至 立教176年2月27日
上 下 山 野 弘 実

◎合祀祭

去る3月21日夕づとめ後、大教会祖霊殿において合祀祭が執り行われ、左の4柱の神霊が合祀されました。

武内清大人(高屋)・田中一之大人(福山)・藤本キヨミ刀自(西村)・山田麗子刀自(六甲)。

なお、大教会役員・おつとめ奉仕人・部内教会長の出直に際しては、今後は、直後の春秋霊祭で合祀することになりましたので、教会長配偶

者・よふぼく・信者等で、合祀を願い出られる場合、霊祭当月18日までに神事部長へ連絡してください。

※お詫びと訂正

本年2月21日発行の『かさおか第52巻第2号』表紙右下の号数が、「立教176年1月号」になっておりましたが、「2月号」の誤りです。

読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させて頂きます。

訃報

三宅善久氏

稲瀬分教会二代会長
四月八日出直されました。
享年 七十八才



最近、親族の結婚が続いている。

二月に従弟が、三月には甥が、そして五月には別の甥の挙式が決まっている。その他に入籍だけのものもあり、めでたい限りであるが、アベノミクスも何のその、我が家の台所は非常に苦しいのである。

それはさて置き、二月三月 お道

と一般の両方の結婚式に出席させてもらった。少なからず適齢期を越えた従弟のMは、教会の後継者として婿入りすることとなり、上級の教会で結婚式を挙げた。ひと回り以上も若い花嫁さんと固めの盃を交わし、教祖に夫婦として共に道を歩むことを誓ったM達。周りの皆がこの不思議な縁に手作りで祝福した。

片や恋愛で結ばれた甥Sは、テレビCMも流れる人気の結婚式場で、大勢のスタッフと華やかな演出の中

夫婦となる幸せを皆に披露し、自分達も悦に入っているようであった。片言の日本語を使う神父に促されて新郎新婦が互いの愛を誓う熱い抱擁。そして讚美歌。まさにドラマで見かける結婚式の演出である。ちなみにSはクリスチャンではない。

結婚を辞書で見ると「夫婦関係を結ぶこと。」とあり、夫婦を見ると「結婚して合体が公認されている一組の男女。」とあった。失笑すら覚える表現だが、Sの結婚はその意味合いが強いものであろう。

お道は、親神様が天地を象り夫婦こしらえた。これが陽気ぐらしの元であると、夫婦の在り様をはっきりとお教え頂いている。一組の男女が、神様を芯に天地の理に沿って一つとなって歩むことをお教え頂くことは、誠に有難い。実践はなかなか難しいが・・・。

いずれの夫婦も、末永く幸せにと願うばかりである。(は)

別席・ひのきしん団参

教祖百三十年祭へ向かうこの時旬に
おちばへ伏せ込もう！！

日時 立教176年(H25)

5月25日～26日

25日 13:00 東礼拝場 集合

内容

13:00 おつとめ

※別席者は直接別席場へ

13:40頃 ひのきしん

(神殿周辺境内地)

16:30 記念講演 (詰所)